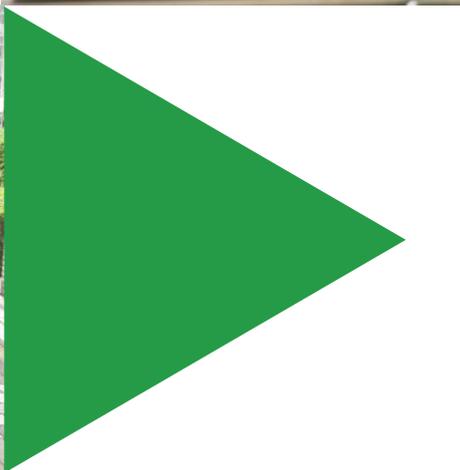
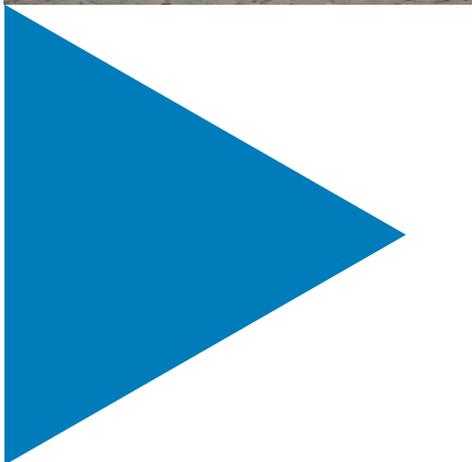
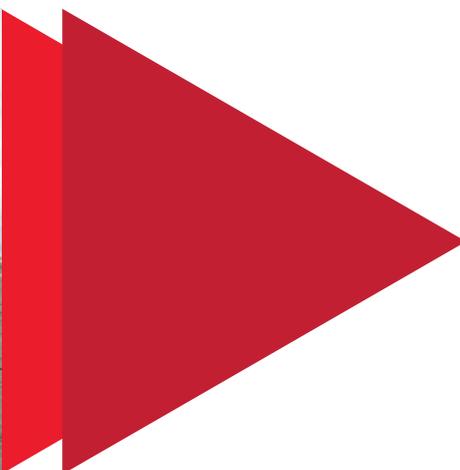


Hisense

CSRLレポート 2023

ハイセンスジャパン株式会社



〔 目次・INDEX 〕

■ 企業理念	>> P03
■ CSR・SDGsへの取組み	>> P04
■ 活動一覧	>> P05
■ 活動レポート	>> P06
(1) 自然環境の保護	>> P06
① 「海の豊かさを守ろう」 国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援	>> P06
② ごみ拾いSNS「ピリカ」活動	>> P09
(2) 地域社会への貢献	>> P11
① 「ひとり親の食糧支援」 NPOフードバンク横浜の活動支援	>> P11
② 全国子ども食堂応援プロジェクト	>> P13
(3) 多様性の尊重と高齢社会課題への貢献	>> P17
① パラスポーツ「ボッチャ」活動	>> P17
■ 企業概要	>> P19



Hisense企業理念

ハイセンス——信頼できるパートナーをめざして。
 創業100年を超えてもなお世界で最も信頼されるブランドであり続けるために。
 私たちは科学と技術の革新に、絶え間ない熱意を注ぎ続けます。
 世界中の人々のクオリティ・オブ・ライフを向上させ、ご家族の幸せの実現を願って。

ビジョン

ハイセンスは創立100周年に向け、世界で最も信頼されるブランドをめざす。

ミッション

技術革新で智能化生産を核とした先進製造業をリードし、人々の生活品質を向上させ全ての家庭に幸福をもたらす。

価値観

誠実・正直・革新的
 ・顧客第一・持続可能な経営。

企業精神

敬人・敬業・創新・
 高効率

企業姿勢

スピードと決断力をもって、粘り強く新しいビジネスを探索する。



CSR・SDGsへの取組み



CSR・SDGsは、ハイセンスジャパンの重要な経営方針の中核にあり、従業員を動機付けるものであるとともに、長期的な事業成長を支えていくものと位置付けています。そのなかで、当社では、社会課題への優先度と当社の専門性をいかせる活動として「自然環境の保護」「多様性の尊重と高齢社会課題」「地域社会への貢献」の3つの重点テーマを掲げ、CSR・SDGsの達成へ向けて貢献しています。当社の製品はご家庭で使って頂くものがほとんどです。ご家族の皆様がいつも健やかで、生き生きと暮らせる社会づくりのために、微力ながら今後も、社員一同、尽力してまいります。

生活の豊かさを創出し、
持続可能な社会づくりに
貢献します。



① 自然環境の保護

世界的に課題となっているプラスチックごみ問題。「海の豊かさを守る」活動においてもこの課題は大きなものとなっています。ご家庭に家電製品をお届けする私たちは、プラスチックごみの問題を身近なものと捉え、この「海の豊かさを守る」活動を支援していきます。

② 地域社会への貢献

いま失業増大やシングルマザー問題など、困難を抱えた方々がたくさんいます。そのような方々の支援に地域で尽力されている団体の方々に製品や社員ボランティアを通してご支援し課題解決に貢献します。

③ 多様性の尊重と 高齢社会への貢献

高齢者や障がい者の方々は孤独になりがちと言われています。私たちは、年齢や障害の有無に関わらず“暮らしの楽しさ”、“心の豊かさ”を実感し、社会との繋がりを持続的に維持して頂く活動を推進します。

活動一覧

2月

- ・「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第9回>
- ・ フードバンク横浜倉庫での棚卸作業支援活動

4月

- ・「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第10回>

6月

- ・「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第11回>

7月

- ・ 全国子ども食堂応援プロジェクト<第4回>

8月

- ・「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第12回>

9月

- ・ 第1回ポッチャ社員体験会
- ・ 全国子ども食堂応援プロジェクト<第5回>

11月

- ・ 全国子ども食堂応援プロジェクト<第6回>
- ・ 第2回ポッチャ社員体験会(部署対抗)
- ・ ランチPIRIKAごみ拾い体験
- ・ 「海の豊かさを守ろう」国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援 <第5回>
- ・ 社員6名が第2回川崎市幸区ポッチャ大会に出場

12月

- ・「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第13回>

人的支援

ブルーフラッグ、フードバンク、ごみ拾い
SNS「ピリカ」、ポッチャを通して

社員ボランティア参加人数(のべ人数)	122人
関係者の参加人数(のべ人数)	130人
一般の参加者人数(のべ人数)	675人

製品による支援

テレビ製品の寄贈	10台
冷蔵庫製品の寄贈	27台

活動を通じてご協力させて頂いた 団体様

日本ブルーフラッグ協会様、ごみ拾いSNS「ピリカ」様、NPOフードバンク横浜様、NPOむすびえ様、川崎市幸区区役所様、幸スポーツセンター様

自然環境の保護



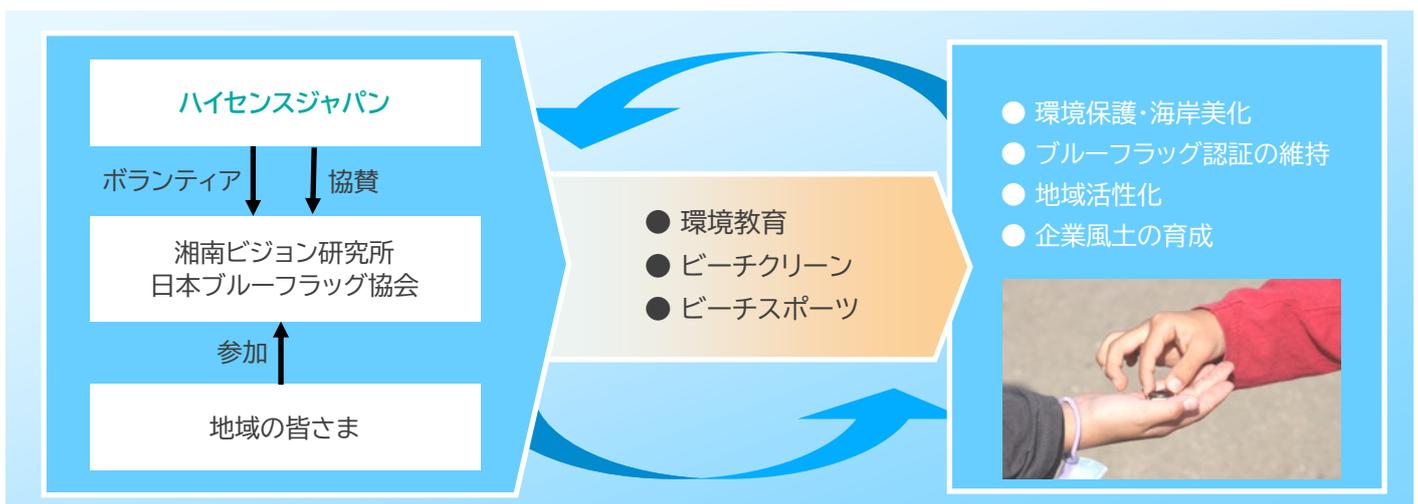
「海の豊かさを守ろう」

国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援



活動目的・OBJECTIVE

ご家庭に家電製品をお届けするハイセンスジャパンは、プラスチックごみの問題を身近なことと捉え、この「海の豊かさを守る」活動を実施しています。人が捨てたプラスチックは環境から消えることなく、海の生態系を傷つけます。そのために私たちは2021年より国際環境認証「ブルーフラッグ」の日本での活動を支援しています。「海の豊かさを守る」活動を支援するにあたり社員がボランティア参加して「海の環境授業」を通し環境保護について学び地域と共に社会貢献を継続実施しています。



活動内容・DESCRIPTION

本取り組みは神奈川県湘南海岸を中心に、2021年と2022年に片瀬海岸西浜(藤沢市)と由比ヶ浜海岸(鎌倉市)でそれぞれ2回実施しました。2023年も「綺麗なビーチでスポーツを楽しむ」をテーマとして片瀬海岸西浜(藤沢市)で1回実施。「ブルーフラッグ」へのハイセンスジャパン社員ボランティア支援活動としては、今回は5回目。

2023年11月11日、ハイセンスジャパン社員10名は一般参加者と一緒にビーチクリーンをし、「ビーチ空手」を体験しました。冷え込んだこの日は、砂浜が早朝から冷たい北風が吹き続けていましたが、ほかのグループも朝一からビーチクリーンを行い、湘南海岸はいつものように賑わいました。先行グループのお陰で、砂浜はごみが少なくて、社員は

遠くの浜までごみを拾いました。

ビーチクリーンが終わって体も少し温かくなって、いよいよ空手体験。参加者の多くは初めての空手なのですが、空手道四段の伊藤由佳莉講師の講習を受け、呼吸法や基本の突き、蹴りを学んで、良い体験となりました。稽古を通して自らと向き合い、忍耐力や体力、精神力を磨くことこそが空手の最大の目的とのこと。寒い海風の中で、掛け声を大きく出して体を動かし、凛々しい姿を見せた皆さんは、空手の魅力が実感できたようです。

最後の環境授業では、クイズゲームの形で、主催者であるNPO法人湘南ビジョン研究所の方から、海の環境問題の知識を勉強しました。

実施概要・OVERVIEW

ビーチクリーン×空手体験 通算第5回

- 日時:11月11日(土)9:30~12:00
 - 場所:片瀬西浜・鶴沼海水浴場(神奈川県藤沢市)
-
- 主催:・NPO法人湘南ビジョン研究所
・一般社団法人日本ブルーフラッグ協会
 - 協賛:ハイセンスジャパン株式会社
-
- 参加者:・ハイセンスジャパン社員10名
・講師と一般参加者約22名
-
- ビーチスポーツ講師:
伊藤 由佳莉さん(空手道四段、準師範)
-
- 環境教育講師:
片山清宏さん(NPO法人湘南ビジョン研究所)



ブルーフラッグとは ・ Blue Flag

ブルーフラッグは、2024年5月26日時点で、世界51か国、5,121か所取得されているビーチ・マリーナ・観光船舶を対象とした環境認証です。ブルーフラッグ認証では、「環境に関する教育と情報公開」「水質」「環境マネジメント」「安全とサービス」に関する厳しい基準を通じて、ビーチやマリーナにおける持続可能な発展の実現を目指しています。ブルーフラッグ認証プログラムは、SDGsの17のゴールにすべて関連しており、FEEではUNEP(国連環境計画)、UNW TO(国連世界観光機関)等との連携のもと、世界各国においてこのプログラムを推進しています。日本では、2024年現在13か所のビーチと1か所のマリーナが認証を得ています。

私たちは2021年から湘南海岸で行われる海の環境教育や海岸清掃に参加し、海の豊かさを守る世界的な環境認証「ブルーフラッグ」の活動を応援しています。

※出典：日本ブルーフラッグ協会ホームページ
※2024年5月現在



● ハイセンスジャパンのブルーフラッグ支援活動(2021年～2023年)

第1回 2021年10月18日
@片瀬海岸西浜



第3回 2022年5月28日
@由比ガ浜



第2回 2021年11月6日
@由比ヶ浜海岸



第4回 2022年11月5日
@片瀬海岸西浜



第5回 2023年11月11日
@片瀬海岸西浜





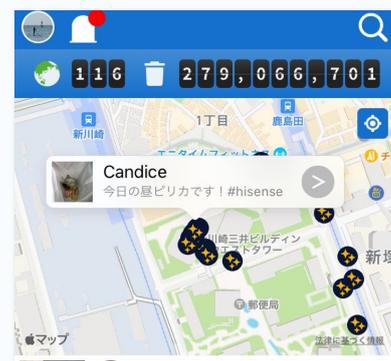
ごみ拾いSNS「ピリカ」活動



いつでもどこでも、 社会貢献活動を！

活動目的・OBJECTIVE

2021年11月から実施した「街からごみを削減するごみ拾いSNSピリカ活動」は、ハイセンスジャパンの社会貢献重点テーマ「海の豊かさを守ろう」に通じる理念です。また自分たちの周りを綺麗にするという習慣は規律ある会社風土の基礎となるとも言われています。休日に多くの時間を費やすボランティア活動と違い、本活動なら全社員が日常取組め、社員全員でこの活動を広げていくために「今月の福星」企画をスタートし全員で社会貢献できる仕組みとしました。



活動内容・DESCRIPTION

社員がごみ拾い&社会貢献のソーシャルアプリ「ピリカ」に登録し、日常生活の中で自主的にごみを拾って「ピリカ」に投稿します。ほかのユーザーから貰った「ありがとう」の数で、もっとも貢献した社員を毎月各拠点の「福星」社員として決定して奨励します。社員が出勤日の昼休みでもごみ拾いを実施できるように、トンゴやごみ袋などの道具も事務所に用意しています。また、「ごみ拾いはスポーツ」という視点から、社員に平日の昼休みを利用して事務所周辺で散歩しながらごみを拾おうと呼び掛けています。こういった活動を「ランチピリカ」を名付け、新入社員を中心に体験会を行います。

実施概要・OVERVIEW

参加社員の人数: **27人**

回収したごみの量: **13,477L**

ユーザーから貰った「ありがとう」の数: **152,259**

※2023年12月30日まで、3拠点合計



社員受賞・AWARD

会社が呼びかけるピリカごみ拾いをきっかけに長年ごみ拾い活動を行って、自治体から表彰頂いた社員がいます。2023年10月28日、当社関東サービスセンターの従業員・登正治さんは、東京都八王子市「八王子市親切会」が主催した「2023年度親切表彰」で、「環境美化」部門の賞を受けました。

ごみ拾いはいつでもちょっとした時間で出来ます。そう思っている登さんは常にトングと回収する袋をカバンに入れておき、自宅から駅に向かう途中、お昼休み、駅から会社に向かう途中でごみを拾っています。ごみ拾いを続ける理由について、登さんはこう語ります。「まず目の前のゴミを拾ってその場所がきれいになるのはとても気持ちがいいです。そしてゴミを

拾うことで、地球環境にほんの少しだけでも貢献できているのではないかと感じることです。またゴミを拾っていることで、いろいろな人とのつながりができたことです。」

心に太陽を、
カバンにトングと
ゴミ袋を





地域社会への貢献



「ひとり親の食糧支援」 NPOフードバンク横浜の活動支援



活動目的・OBJECTIVE

コロナ禍をはじめ生活格差の拡大で、特にひとり親を中心に生活困窮の家庭が増えています。川崎市や横浜市でもその数は増大し、一方で食品ロスなど食品の廃棄問題はSDGsでも大きな課題となっています。生活困窮者に手を差し伸べ、かつ食品の廃棄の課題にも向き合う「ひとり

親支援・フードバンク」という活動が社会で求められています。ハイセンスジャパン社員がその活動に「ボランティア」参加することで、企業市民の一員として、生活困窮者支援へ貢献します。

活動内容・DESCRIPTION

ハイセンスジャパンの社員はボランティアとして、NPOフードバンク横浜が休日に主催する「ひとり親への食糧配布会」に自主参加し、ほかの一般からのボランティアと一緒に食糧運搬と会場準備、食糧配布、撤収作業などをお手伝いします。様々な団体や企業・個人の方から頂いた寄

付の品々(食料や調味料、文房具屋、衣類など)をその寄付の想いを感じながら来場のシングルマザー・ファーザーの方々にお渡し、逆に来場者からはたくさん「ありがとう」の言葉を頂く会となっています。

実施概要・OVERVIEW

主催者:特定非営利活動法人フードバンク横浜
 場所:神奈川県センター/
 横浜市神奈川区神奈川本町8-1
 実施回数:**4回**

食ロス削減

×

ひとり親支援

【第1回】食品配布(通算・第9回)
 日時:2月18日(土) 10:00—16:00
 参加社員:**6名**
 来場家庭:**43世帯**



【第2回】倉庫棚卸し(通算・第10回)
 日時:2月23日(木) 10:00—16:00
 参加社員:**4名**(社員家族1名)



【第3回】食品配布(通算・第11回)
 日時:4月15日(土) 10:00—16:00
 参加社員:**5名**(社員家族1名)
 来場家庭:**39世帯**



【第4回】食品配布(通算・第12回)
 日時:6月17日(土) 10:00—16:00
 参加社員:**2名**
 来場家庭:**44世帯**



【第5回】食品配布(通算・第13回)
 日時:8月19日(土) 10:00—16:00
 参加社員:**2名**
 来場家庭:**38世帯**



【第6回】食品配布(通算・第14回)
 日時:12月16日(土) 10:00—16:00
 参加社員:**6名**
 来場家庭:**40世帯**





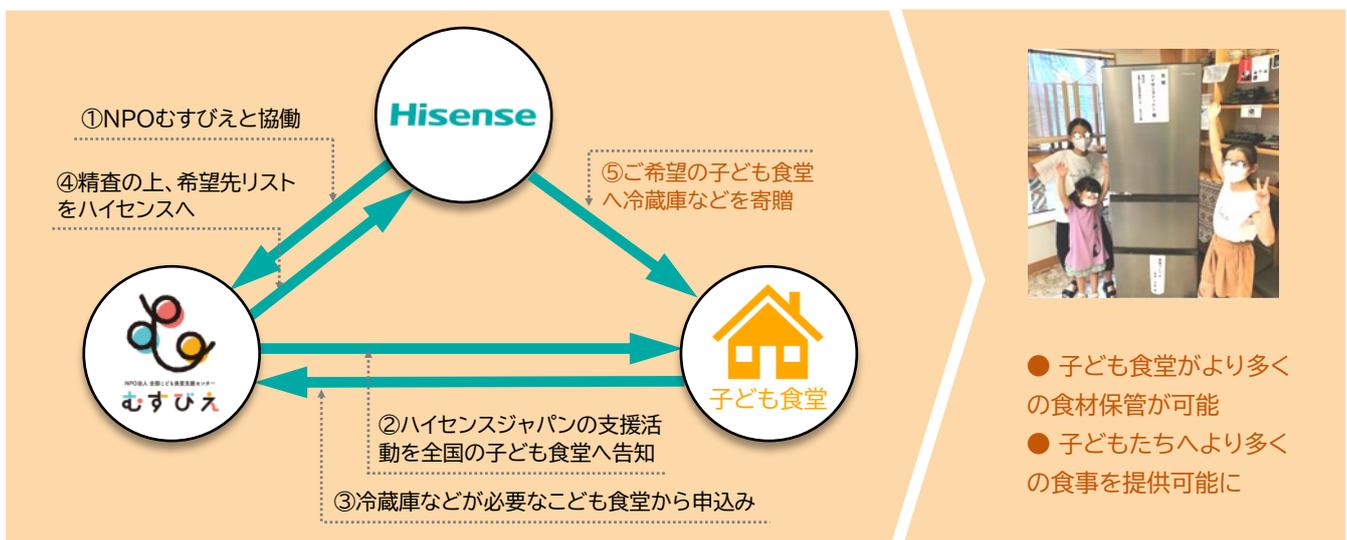
全国こども食堂応援プロジェクト



活動目的・OBJECTIVE

こども食堂とは、様々な理由で食事を家庭で取りにくい子供たちに、無償などで食事を提供する活動です。認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえが各地でこども食堂を支える地域ネットワーク団体とともに行った調査では、こども食堂は全国で7,363か所(2022年度)が確認されました。NPOの方々からは「頂いた食材を少しでも多く保存したいが、冷蔵庫などの保管設備が限られ

る」との課題を、お伺いしました。そこで、ハイセンスジャパンは2021年からむすびえ様との協働で、希望する全国のこども食堂に冷蔵庫などの自社家電製品を寄付するプロジェクトを展開し、2023年からはさらに配送においてSB S東芝ロジスティクス株式会社様にもご協力いただき、今よりも多くの食材を保管し、子供たちにたくさんの食事を提供頂けるようにご支援しています。



活動内容・DESCRIPTION

2021年から始まった本プロジェクトは、これまで中国・四国地区と九州地区、関西地区の子ども食堂に冷蔵庫とテレビを73台寄贈してきました。2023年は、さらに中部地区に10台、北海道・東北地区に10台、関東地区に17台、合

計37台を寄贈。これで日本全国の8地区をカバーする目標を達成し、累計で110団体にテレビか冷蔵庫を110台に寄贈しました。

第一回

実施地区：
中国・四国地区
2021年8月

冷蔵庫寄贈：
10か所、10台

第二回

実施地区：
九州地区 2021年10月

冷蔵庫寄贈：
10か所、10台

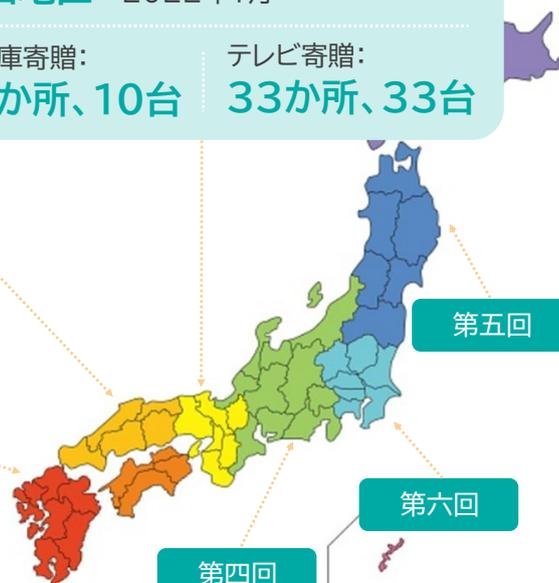
テレビ寄贈：
10か所、10台

第三回

実施地区：
関西地区 2022年1月

冷蔵庫寄贈：
10か所、10台

テレビ寄贈：
33か所、33台



第五回

第六回

第四回

実施地区

冷蔵庫寄贈

テレビ寄贈

第四回

中部地区
2023年7月

10か所
10台

第五回

北海道・東北地区
2023年9月

10か所
10台

第六回

関東地区
2023年11月

7か所
7台

10か所
10台

■ 第四回全国子ども食堂応援プロジェクトの詳細

No	子ども食堂名	製品品類	台数
1	学び舎楽人（長野県）	冷蔵庫	1
2	しずおかキッズカフェ（静岡県）	冷蔵庫	1
3	社会福祉法人楽笑（愛知県）	冷蔵庫	1
4	和っとひろば@西地区（岐阜県）	冷蔵庫	1
5	七和なかよし食堂（三重県）	冷蔵庫	1
6	わたらい子ども食堂「おおきんな」（三重県）	冷蔵庫	1
7	一般社団法人みんなの居場所withふくい（福井県）	冷蔵庫	1
8	国府ふなみ子ども食堂（石川県）	冷蔵庫	1
9	子ども食堂ニコニコごはん（愛知県）	冷蔵庫	1
10	子ども食堂つむぎ（静岡県）	冷蔵庫	1
			合計:10

■ 第五回全国子ども食堂応援プロジェクトの詳細

No	子ども食堂名	製品品類	台数
1	ウォランタスみさと（ほとり食堂）（秋田県）	冷蔵庫	1
2	わらすば 50円食堂（岩手県）	冷蔵庫	1
3	エスクール岩手 親子食堂ばーちゃんち（岩手県）	冷蔵庫	1
4	子どもカフェたまご（福島県）	冷蔵庫	1
5	ふとうこうカフェinせんだいみやぎ（ふふふ子ども食堂）（宮城県）	冷蔵庫	1
6	食育食堂 どんぐり山（岩手県）	冷蔵庫	1
7	特定非営利活動法人くろいし（黒石子ども食堂）（青森県）	冷蔵庫	1
8	子ども食堂まるっと栗原（宮城県）	冷蔵庫	1
9	ぱすかるキッズ子ども食堂（福島県）	冷蔵庫	1
10	ばんげ市民活動サポートセンター（福島県）	冷蔵庫	1
			合計:10

■ 第六回全国子ども食堂応援プロジェクトの詳細

No	子ども食堂名	製品品類	台数
1	イドバタ子ども食堂（東京都）	テレビ	1
2	しょうけい子ども食堂（東京都）	テレビ	1
3	ハレとケ（茨城県）	テレビ	1
4	地域子ども食堂izumi（茨城県）	テレビ	1
5	子ども食堂さくら（栃木県）	テレビ	1
6	おおたラーメン子ども食堂（東京都）	テレビ	1
7	かえで子ども食堂（神奈川県）	テレビ	1
8	御所見スマイルカフェ（神奈川県）	テレビ	1
9	まめっこ食堂（栃木県）	テレビ	1
10	エリーズカフェ子ども食堂（神奈川県）	テレビ	1
			合計:10

No	子ども食堂名	製品品類	台数
11	フードバンク大田 芋やぼんぼ子ども食堂（東京都）	冷蔵庫	1
12	波岡地域食堂にこハピ（千葉県）	冷蔵庫	1
13	木更津市社会福祉協議会(木更津子ども食堂ネットワーク)（千葉県）	冷蔵庫	1
14	おだわら児童館連合（神奈川県）	冷蔵庫	1
15	さいたま子ども食堂（埼玉県）	冷蔵庫	1
16	子ども食堂 ウメキッチン（東京都）	冷蔵庫	1
17	NPO法人あっとホームたかまつ（茨城県）	冷蔵庫	1
			合計:17

団体のメッセージ・MESSAGE

● 子ども食堂つむぎ様(静岡県)

私たちでは、ひとり親家庭の子ども80名が登録しており、食事やお弁当の無料配布やフードパントリーを定期開催しています。何より「手づくり」を大事に、子ども達がお弁当で笑顔になってくれれば、との思いで活動しています。コロナの時期にはお正月に、おせちを作ったこともありました。食堂では、業務用冷凍庫は購入したのですが、冷蔵庫が小さいため、全員の食材を保存することができず、苦労していました。今回の寄贈では、子ども食堂の開催日に、ハイセンスジャパン株式会社様より寄贈の冷蔵庫が到着。早速、ご近所から寄付で頂いたホールケーキ3台を冷蔵保存させて頂きました。大きな冷蔵庫が、これからも大活躍してくれそうです。素晴らしいプレゼント、本当にありがとうございました。



● ふとうこうカフェinせんだいみやぎ様(宮城県)

この度は冷蔵庫のご寄付をいただき、本当にありがとうございました。頂いた冷蔵庫に「新しい!」「大きい!」と、皆とても感動し、感謝しております。冷蔵庫で冷蔵・冷凍保存した食材を子ども食堂で早速活用させて頂きました。当団体では子ども食堂・フリースクール(毎日昼食を提供)を運営しているのですが、以前の冷蔵庫は一人暮らし用ほどの大きさで、冷凍食材の寄付提供のお話があっても入れるスペースがなくてお断りしたり、遠く離れた他団体の冷凍庫をお借りしに行き行って保管したりしなければならなかった状況でした。大きい冷蔵庫、特に冷凍室が大きいものをご寄付頂き本当に助かるなあと思います。よろしく願いいたします。



● しょうけいこども食堂様(東京都)

こども食堂に来ている子供達が早速「〇〇が観たい、いや〇〇がいい!」等と話し合っ観ていました。また、観ている間は、子供達が集中して観ていたのので、親がお茶を飲みながらゆっくりとした時間が持てて、話が盛り上がっていました。これからもイベント等で、ゲームなどでも活用したいと思っております。大切にさせていただきます。本当にありがとうございました。





多様性の尊重と高齢社会課題への貢献



パラスポーツ「ボッチャ」活動

活動目的・OBJECTIVE

ハイセンスジャパン本社所在地の川崎市と幸区は「誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち」を目指し、パラスポーツ「ボッチャ」を普及しています。私たちは共生・障害のない社会構築に貢献する視点から、社内外でボッチャ活動を展開し、特に高齢者や障がい者の方々にスポーツを楽しめる機会を創出しています。

活動内容・DESCRIPTION

ボッチャの社内普及を「ボッチャを通じた社会貢献の第一歩」と捉え、9月11日に川崎市幸区地域振興課と幸スポーツセンターの方を講師としてお招きして、第1回ボッチャ社員体験会を行いました。社員が実際に体験し、ルールや投げ方などボッチャの基本を勉強しました。また、11月1日に幸スポーツセンターの方にご来社して第2回ボッチャ社員体験会兼部署対抗を開催してもらいました。社員に戦略を練ってボッチャの魅力を深めてもらいました。

更に、ハイセンスジャパンは幸区役所や幸区社会福祉協議会などの機関と団体が11月26日に主催する「第2回幸区ボッチャ大会」を協賛しました。同時に、社内でボッチャサークルを行い練習を重ねて、社員6名は同大会に出場し、地域住民との熱戦を展開しました。トーナメントの2回戦で止まりましたが、熱い戦いでした。

ボッチャとは

ヨーロッパ発祥のボッチャとは、イタリア語で「ボール」を意味し、重度脳性麻痺者もしくは四肢重度機能障がい者のために考案された競技。目標のボールに自分のボールをいかに近づけられるかを競うスポーツです。パラリンピックの正式種目として、日本では2020東京パラリンピックで日本代表がメダルを獲得したことで注目が上がっています。川崎市も「誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち」を目指し、でボッチャ活動に取り組んでいます。

実施概要・OVERVIEW

【第1回社員体験会】

日時:9月11日

場所:当社新川崎本社

講師:幸区地域振興課と幸スポーツセンターの方

参加社員人数:**15名**



【第2回社員体験会兼部署対抗】

日時:11月1日

場所:当社新川崎本社

講師:幸スポーツセンターの方

参加社員人数:**24名**



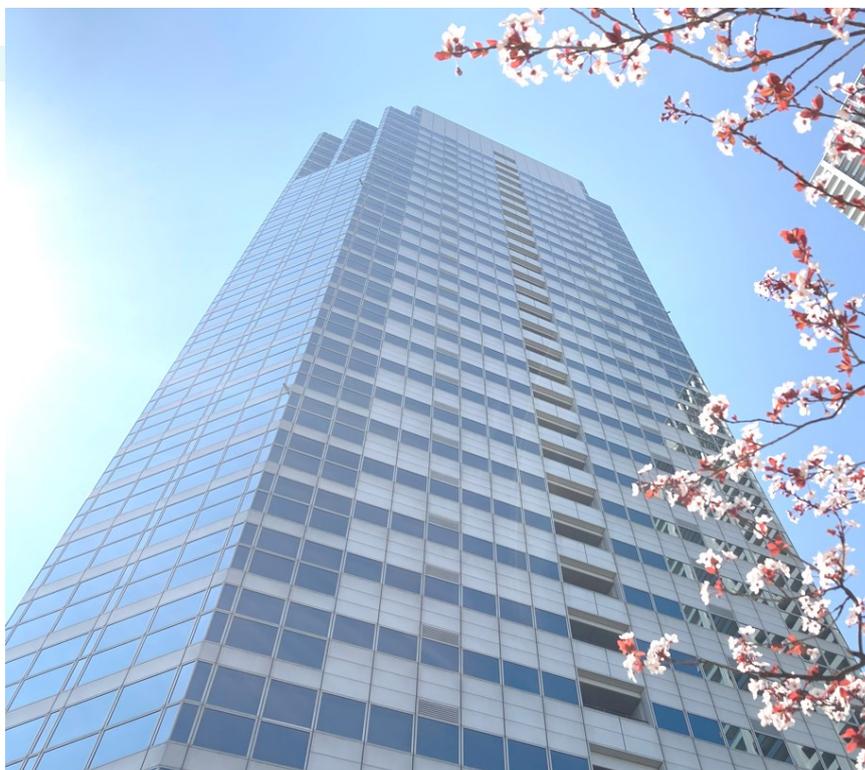
【第2回幸区ポッチャ大会協賛/社員出場】

日時:11月24日

場所:幸スポーツセンター

出場社員人数:**6名**





日本市場で育てて頂いた私たちだからこそ、いま日本が直面する社会課題に、重点的に取り組めます。

ハイセンスジャパン・HISENSE JAPAN

社名：ハイセンスジャパン株式会社

本社：

神奈川県川崎市幸区鹿島田1-1-2

新川崎三井ビルディングウエストタワー19階

設立日：2010年11月4日

代表者：代表取締役社長 李文麗

事業内容：家電の輸入・販売等

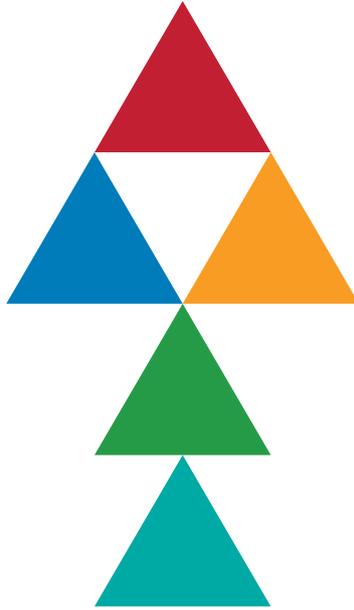
URL: <https://www.hisense.co.jp>

ハイセンスグループについて・ABOUT HISENSE GROUP

ハイセンスグループは、1969年に中国青島に設立されました。現在従業員は全世界に約10万人、2023年度の売り上げは約4兆円、テレビの出荷台数においては世界市場でシェアNo.2を誇っています。経営理念は『最高の技術、最高の品質、最高のサービスをもってグローバルブランドを創造する』であり、高い研究開発力と優秀なグローバル経営マネジメントを基礎に、最新の通信技術と人工知能システム、デジタルマルチメディア技術および家電、通信、不動産などの分野を網羅した多角化経営を確立し、世界の160以上の国と地域でハイセンス製品が選ばれています。

ハイセンスは世界中のスポーツを幅広くスポンサーし応援しています。2022年FIFAワールドカップ・カタール大会の公式スポンサーをはじめ、テニス、ラグビー、F-1などこれまでも様々なスポーツをサポートしてまいりました。ハイセンスはこれからもお客様のために、“暮らしの楽しさ”、“心の豊かさ”をお届けできるように取り組んでまいります。





Hisense

■お問い合わせ先

ハイセンスジャパン株式会社 マーケティング部

E-mail: k.iekura@hisense.com

URL: <https://www.hisense.co.jp>